

令和3年2月17,18,19日

剪定講習会次第

富山干柿出荷組合連合会

1.挨拶

生産組合長

北島会長

2.令和2年度の集荷・販売実績について（藤井副会長）

3.令和2年度の特徴と今後の課題

富山県砺波農林振興センター 副主幹 谷口正裕氏

4.令和2年度の反省点及び今後の取り組みについて

5.質疑等

三社柿せん定講習会資料

令和3年2月
砺波農林振興センター

三社柿せん定の目的

1. 加工に適した品質の良い果実を毎年安定して着果させる。
(おいしい干柿を作るためには特に重要)
2. 樹冠全体に光・薬剤が行き渡り(着色向上・カイガラムシ発生防止)、
管理作業のしやすい樹形に整える。
3. 園地全体に光・薬剤を行き渡らせるとともに、通路を確保し、防除・
草刈・収穫等の作業性向上に努める。

1. 樹高を切り下げる

高所作業車に乗ったとき、見下ろした状態で摘果や収穫作業ができるよう、また、薬剤が届くよう高い場所の主枝や上に向いた側枝を切る。

2. 縮間伐を進める

永久樹(将来的に残る樹)と縮伐樹(徐々に切っていく樹)をはっきりさせ、永久樹と縮伐樹の枝がぶつかってきたら、縮伐樹の枝を切り、永久樹の枝を伸ばす。縮伐樹は樹形を気にしない。永久樹の枝が張り出し、縮伐樹が置けなくなったら思い切って間伐する。

3. 主枝の整理を進める

主枝は、地上1~2mの高さから発生している3~4本程度を最終的に残す主枝として決め、これに邪魔する枝(主枝に日陰を作る枝、主枝から発生する側枝とぶつかる枝)は、きる。

4. 枝の混み合いをなくす

上下に重なったり、間隔が狭かったりする側枝は、いずれか一方を間引きせん定する。

5. 結果母枝を置く空間を確保する

亜主枝や側枝などの骨格となる枝(骨格枝)が、二股や三股、タコ足状に複雑に枝分かれすると枝が込み合い結果母枝を多く置けないので、生産量が低下する。枝分かれした骨格枝を数年間かけて段階的に切り、結果母枝を置く空間を確保する。

今年度の干柿の反省点

1. 過乾燥、乾燥不足の混入

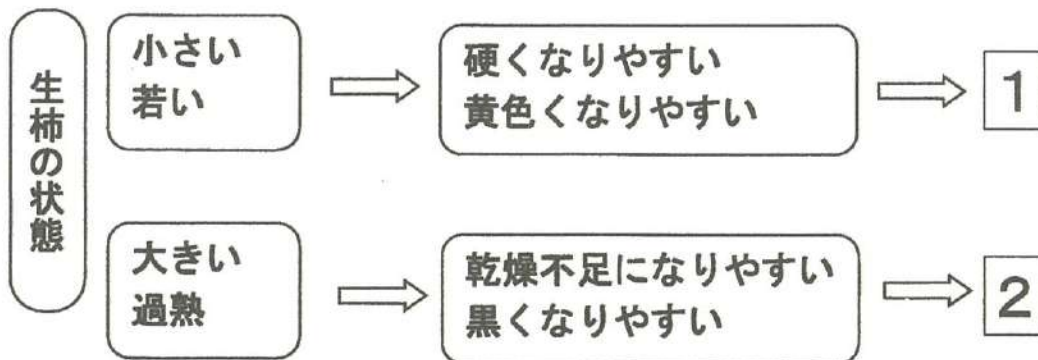
- (1) 早い時期の硬い干柿
- (2) 終盤の乾燥不足（包装後のカビの発生）

2. 空洞果（無核果）の混入（内部カビの発生）

3. 異物の混入（カメムシ、クモ、髪の毛）

基本技術の再点検

(1) 生柿の大きさ、熟度に合わせた乾燥



1の対応

- ① 未熟果を加工しない。
- ② ヘタ周りまで十分着色してから（カラーチャート指数 3.5 以上）収穫する。
- ③ 電気乾燥では急激な乾燥はしない。休乾は柿の表面に水分の戻りが見られるまで時間を十分にとる。

2の対応

- ① 仕上げ乾燥は休乾して水分の戻りがある筈は繰り返し干す。
- ② 仕上がったと思っても、室から出してすぐに糸切りしない。24 時間程度経って、戻りがなければ糸切りをする。

(2) 品質の生柿は加工場に持ち込まない

- ① ヘタすき
- ② 空洞果